

I 教育課程の基準の改善の方針

1 教育課程の基準の改善の基本的考え方

(1) 教育課程の基準の改善に当たっての基本的考え方

(子どもたちの成長への願いと学校への期待)

子どもたちは、幼児期から思春期を経て、自我を形成し、自らの個性を伸長・開花させながら発達を遂げていく。教育は、こうした子どもたちの発達を扶ける営みである。もちろんその営みは学校のみが担うものではなく、学校、家庭、地域社会が連携を図り、それぞれがその教育機能を十分発揮してはじめて子どもたちのよりよい発達が促されるものである。

我々は、後でも述べるように、子どもたちの生活の在り方や学習の環境を変え、学校、家庭及び地域社会の役割を見直し、学校では学ぶことの動機付けや学び方の育成を重視し、家庭や地域社会で担うべきものや担った方がより効果が得られるものについては家庭や地域社会において担うなどして、よりバランスのとれた教育が行われることが必要であると考える。

家庭や地域社会における教育については、子どもたちがもっと社会体験や自然体験などの様々な活動を体験し、それらと、学校における教育活動とを更に有機的に関連付けることによって一層教育効果を高めることができるし、また、学校で学習した知識・技能や学び方などは、家庭や地域社会において生きて働く力として用いられることによって一層深められ、根付いていくと考える。

子どもたちの教育環境を構成する様々な場の中で、学校は、子どもたちの発達の状況を踏まえて、組織的・計画的・継続的な教育を行って、子どもたちの発達を促すという特質をもっている。このような学校教育の特質を踏まえ、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、盲学校、聾学校及び養護学校を通じ、それぞれの学校が子どもたちの発達の状況や教育課程実施の現状、教育課題等を踏まえつつ、系統性のある教育課程を用意し、それぞれの教育課題の実現をしっかりと果たしていくことは極めて重要なことである。

ところで、我々の任務は、これからの教育課程の基準はいかにあるべきかを提示することであるが、その具体的な実現に当たっては、教育活動を展開する各学校が、その場にふさわしい環境を備えていることが不可欠である。

特に重要だと思われるものをいくつか挙げると、まず、学校は子どもたちにとって伸び伸びと過ごせる楽しい場でなければならない。子どもたちが自分の興味・関心のあることにじっくり取り組めるゆとりがなければならない。また、分かりやすい授業が展開され、分からないことが自然に分からないと言え、学習につまずいたり、試行錯誤したりすることが当然のこととして受け入れられる学校でなければならない。さらに、そのためには、その基盤として、子どもたちの好ましい人間関係や子どもたちと教師との信頼関係が確立し、学級の雰囲気も温かく、子どもたちが安心して、自分の力を発揮できるような場でなければならない。

このような教育環境の中で、教科の授業だけでなく、学校でのすべての生活を通して、子どもたちが友達や教師と共に学び合い活動する中で、自分がかけがえのない一人の人間として大切にされ、頼りにされていることを実感でき、存在感と自己実現の喜びを味わうことができることが大切であると考えます。

また、子どもたちの学校生活は、登校してから下校するまでの様々な活動で成り立っている。各教科等の授業を中心に、例えば、始業前の時間、休み時間、また、授業終了後の放課後に、友達同士の自由な遊びがあり、部活動があり、また、読書など一人一人思い思いの過ごし方をする時間がある。こうした子どもたちの主体的な活動は、子どもたちの成長にとって極めて大きな意義をもっている。各学校は子どもたちが伸び伸びとこうした活動で過ごせるよう様々な工夫を凝らしてほしい。我々は、このような子どもの学校生活全体のうち、どこの学校に学んでも子どもたちに提供されるべき教育内容について、そのあるべき姿を検討したものであり、それは各学校の教育活動のすべてにわたっているものではない。各学校においては、それぞれに子どもたちの実情を十分に把握し、子どもたちの学校生活を全体として考え、よりよいものにしていく努力が極めて重要であることを指摘しておきたい。

我々は、以上のような子どもたちの成長への願いと学校への期待をもちながら、教育課程の基準の改善について検討を行った。

検討に当たっての基本的な考え方は次のとおりである。

(各学校段階の役割の基本)

ア 第一は、それぞれの学校段階の役割の基本については、次のように考えたということである。

幼稚園においては、幼児の欲求や自発性、好奇心などを重視した遊びや体験を通じた総合的な指導を行うことを基本とし、人間形成の基礎となる豊かな心情や想像力、ものごとに自分からかかわろうとする意欲、健全な生活を営むために必要な態度の基礎を培い、小学校以降の生活や学習の基盤を養うことが求められていること。

小学校においては、個人として、また、国家・社会の一員として社会生活を営む上で必要とされる知識・技能・態度の基礎を身に付け、豊かな人間性を育成するとともに、自然や社会、人、文化など様々な対象とのかかわりを通じて自分のよさ・個性を発見する素地を養い、自立心を培うことが求められていること。

中学校においては、義務教育の最終段階として、また、中等教育の前期として、個人として、また、国家・社会の一員として社会生活を営む上で必要とされる知識・技能・態度を確実に身に付け、豊かな人間性を育成するとともに、自分の個性の発見・伸長を図り、自立心を更に育成していくことが求められていること。

高等学校においては、義務教育の基礎の上に立って、自らの在り方生き方を考えさせ、将来の進路を選択する能力や態度を育成するとともに、社会についての認識を深め、興味・関心等に応じ将来の学問や職業の専門分野の基礎・基本の学習によって、個性の一層の伸長と自立を図ることが求められていること。

盲学校、聾学校及び養護学校においては、幼稚園、小学校、中学校及び高等学校に準ずる教育を行うとともに、障害に基づく種々の困難を改善・克服するために必要な知識や技能等を養い、個性を最大限に伸長し、自立し、社会参加するための基盤となる資質や能力の育成を図ることが求められていること。

(子どもの現状、教育課程実施の現状と教育課題)

イ 第二は、子どもの現状、教育課程実施の現状と教育課題を踏まえるということである。

子どもや子どもの生活の現状については、中央教育審議会第一次答申において、子どもたちは、ゆとりのない忙しい生活を送っていること、社会性が不足し、規範意識が低下していること、自立が遅くなっていること、肥満傾向や視力の低下が見られること、体力・運動能力の低下傾向が見られることなどの問題点が指摘されている。

いじめ、不登校、凶悪化する青少年非行などの憂慮すべき状況、子どもたちの倫理観や社会性の不足、社会全体のモラルの低下などの状況等を背景として、中央教育審議会からは幼児期からの心の教育を充実し、学校、家庭、地域社会が一体となって新しい時代を拓く心を育てることの重要性も指摘されている。他方、学校において、道徳教育に対する姿勢や考え方の相違なども背景として、道徳教育についての各教師の理解と取組、学校全体としての実践が必ずしも十分でない状況も指摘されている。

また、高等学校については、中学校卒業生の約97%が進学し、能力・適性、興味・関心等の多様な生徒が在学する状況の中で、学校生活や学業に適応できずに退学するに至る者の数も相当数に上っている。

我々は以上の状況を十分認識する必要があると考えた。

現行の教育課程実施上の現状と課題については、文部省が平成5年度から平成7年度にかけて実施した「教育課程実施状況に関する総合的調査研究」の調査結果によれば、子どもたちは計算などの技能や文章の読み取りの力、自然事象や社会的事象についての基礎的知識はよく身に付けており、学習に対する関心や意欲も高いという状況が見られる。また、IEA(国際教育到達度評価学会)の国際調査結果によれば、我が国の子どもたちの学力は国際的に見ても高い水準にあることがうかがえる。こうした調査結果のほか、研究指定校等におけ

る実践や各種の資料・調査などを含めて総合的にみると、現行の教育課程の下における我が国の子どもたちの学習状況は全体としてはおおむね良好であると思われるものの、次のような問題もある。すなわち、これらの調査等によれば、過度の受験競争の影響もあり多くの知識を詰め込む授業になっていること、時間的にゆとりをもって学習できずに教育内容を十分に理解できない子どもたちが少なくないこと、学習が受け身で覚えることは得意だが、自ら調べ判断し、自分なりの考えをもちそれを表現する力が十分育っていないこと、一つの正答を求めることはできても多角的なものの見方や考え方が十分ではないこと、また、算数・数学や理科の学習について国際比較すると、得点は高いものの、積極的に学習しようとする意欲等が諸外国に比べ高くはないなどの問題である。

各教科等の教育内容の改善を検討するに当たって、我々はこうした子どもの現状、教育課程実施の経験等を十分踏まえることに努めた。

(「時代を超えて変わらない価値あるもの」を身に付ける)

ウ 第三は、教育においては、どんなに社会が変化しようとも「時代を超えて変わらない価値あるもの」を子どもたちがしっかりと身に付ける必要があるということである。

このことについては、中央教育審議会第一次答申において、正義感や公正さを重んじる心、自らを律しつつ、他人と協調し、他人を思いやる心、人権を尊重する心、自然を愛する心などの豊かな人間性を培うこと、国語をしっかりと身に付けること、我が国の歴史や文化を学び、それらを大切にすることを培うこと、たくましく生きるための健康や体力を培うことなどの重要性が指摘されている。

我々も、このことについて十分認識し、これからの学校教育において、このようないかに社会が変化しようとも時代を超えて変わらない価値あるものを、子どもたちにしっかりと身に付けさせることが重要な課題であると考えた。

(社会の変化に柔軟に対応し得る人間の育成)

エ 第四は、教育においては、社会の変化を見通しつつ、これに柔軟に対応し得る人間の育成を期する必要があるということである。

学校では教師と子どもたちとの信頼関係を基盤に教育活動が展開され、時代を超えて変わらない価値あるものを子どもたちにしっかりと身に付けていかなければならないが、学校教育は言うまでもなく、次代を担う子どもたちの教育を行う場であり、これからの社会の変化を見通し、その変化に適切に対応できる力を育成することもまた極めて重要であると言わなければならない。

今日、我が国は、国際化、情報化、科学技術の進展、環境問題への関心の高まり、高齢化・少子化など社会の様々な面での変化が急速に進んでおり、今後一層の激しい変化が予想されている。これらの社会の変化は、子どもたちの教育環境や意識に大きな影響をもたらし、教育上の様々な課題を生じさせるものと思われる。

このような激しい変化が予想される社会において、主体的、創造的に生きていくためには、中央教育審議会第一次答申においても指摘されているとおり、自ら考え、判断し行動できる資質や能力の育成を重視していくことが特に重要なこととなってくる。

そして、そのためには、これからの学校教育においては、これまでの知識を一方向的に教え込むことになりがちであった教育から、自ら学び自ら考える教育へと、その基調の転換を図り、子どもたちの個性を生かしながら、学び方や問題解決などの能力の育成を重視するとともに、実生活との関連を図った体験的な学習や問題解決的な学習にじっくりとゆとりをもって取り組むことが重要であると考えた。

(完全学校週5日制下の教育内容の在り方)

オ 第五は、平成14年度(2002年度)から実施することとされている完全学校週5日制を円滑に実施するための教育内容の在り方を検討したということである。

中央教育審議会第一次答申では、これまでの学校週5日制の実施の経験を踏まえ、子どもたちにゆとりをもたせ、家庭や地域社会における生活の比重を高め、学校、家庭及び地域社

会の教育全体の在り方を改善する必要があることを指摘しつつ、我が国の学校教育に完全学校週5日制を導入することを提言している。

変化の激しいこれからの社会においては、生涯を通じ、いつでも自由に学習機会を選択し、楽しく学び続けることが重要であるとの生涯学習の考え方を更に進めていくことが必要である。我々は、完全学校週5日制の導入を契機に、教育は学校教育のみで完結するのではなく、学校教育では生涯学習の基礎となる力を育成することが重要であるとの考え方に立って、教育内容の改善を図る必要があると考えた。

(教育内容の厳選と基礎・基本の徹底)

カ 第六は、教育内容の厳選を徹底し、基礎・基本の確実な習得を図るようにしなければならないということである。

中央教育審議会第一次答申において指摘されているとおり、[ゆとり]の中で[生きる力]を育成するためには、学力を単なる知識の量ととらえる学力観を転換し、教える内容をその後の学習や生活に必要な最小限の基礎的・基本的内容に厳選する一方、その厳選された基礎的・基本的内容については、子どもたちの以後の学習を支障なく進めるためにも繰り返し学習させるなどして、確実に習得させなければならないと考えた。

我々は、教育内容の厳選について、完全学校週5日制を実施するための授業時数の縮減・教育内容の削減にとどまってはならないと考えた。こうした、単なる完全学校週5日制対応のためということだけでなく、子どもたちの学習の現状や教育課題を踏まえ、授業時数の縮減以上に思い切って教育内容を厳選し、もっばら覚えることに追われていると指摘されるような状況をなくして、子どもたちがゆとりの中で繰り返し学習したり、作業的・体験的な活動、問題解決的な学習や自分の興味・関心等に応じた学習にじっくりと創意工夫しながら取り組めるようにすることに努めた。

このため、各教科等を通じて、子どもたちにとって理解が困難であったり高度になりがちになったりする内容、単なる知識の伝達や暗記に陥りがちな内容、各学校段階間又は各学年間、各教科間で重複する内容、学校外活動や将来の社会生活で身に付けることが適切な内容などについて削除したり、上学年へ移行統合したり、取扱いを軽減したりすることなどにより、教育内容を厳選することに努めた。

(学習の指導と評価の在り方)

キ 第七は、これからの学校教育における学習の指導と評価の在り方が極めて重要であるということである。

我々は、自ら学ぶ意欲や思考力・判断力・表現力などの資質や能力の育成を重視するこれからの学校教育においては、従来のような知識を教え込むような授業の在り方を改め、子どもたちが自分で考え、自分の考えをもち、それを自分の言葉で表現することができるような力の育成を重視した指導を一層進めていく必要があると考えた。

また、指導に当たって教師は子どもたちと共に学び考え、子どもたちの問題解決を助けていくという姿勢が大切であると考えた。こうした指導を進めていく上で、学習の評価の在り方は極めて大きな影響をもつものである。いくら理想的な指導の在り方を説いても、例えば従来どおり知識の量を測るような評価が重視されては、指導の改善は進まないと言わざるを得ないからである。

学力については、中央教育審議会第一次答申も指摘しているとおり、これを単なる知識の量ととらえるのではなく、自ら学び自ら考える力などの[生きる力]を身に付けているかどうかによってとらえるべきであると考えた。ただし、当然のことながら、自ら学び自ら考える力を育成する基盤として、一定の基礎的・基本的な知識や技能等を身に付けていることが不可欠であり、

そのため、教師は、カで述べたように、子どもたちにこうした基礎的・基本的な知識や技能等を繰り返し学習させるなどして、確実に習得させる必要がある。

このような考え方に立って、指導の改善に生かす評価という観点から、学習の結果だけでなくその過程を一層重視したり、子どものよい点や可能性、進歩の状況を積極的に評価するなど評価の在り方を見直す必要があると考える。また、その際には、各教科の学習の評価の在り

方についても、すべて共通の評価方法によって行っている現在の在り方を見直し、学校段階・学年段階、教科の特質等を考慮しつつ改善を図る必要があると考える。

(2) 教育課程の基準の改善のねらい

このような基本的考え方に立って、幼児児童生徒の実態、教育課程実施の状況、社会の変化などの分析、検討を行うとともに、将来の教育課程の基準のあるべき姿を展望する中で、我々は次の四点を今回の教育課程の基準の改善のねらいとして掲げることとした。

まず、「i) 豊かな人間性や社会性、国際社会に生きる日本人としての自覚を育成すること」である。このことは、幼児児童生徒の現状や国際化の進展等を踏まえて、これからの時代を担う幼児児童生徒を育成する学校教育の在り方を考えるとき、時代を超えて変わらない調和のとれた人間形成は特に重要であると考えられるからである。したがって我々は、これを改善のねらいの第一に掲げることとしたものである。

次いで、「ii) 自ら学び、自ら考える力を育成すること」である。これからの激しい変化が予想される社会を生きていく幼児児童生徒の教育の在り方を考えるとき、多くの知識の習得に偏りがちであったこれまでの学校教育の基調を転換することが重要であると考え、これをねらいの第二に掲げることとした。

第三には、各学校が「iii) ゆとりのある教育活動を展開する中で、基礎・基本の確実な定着を図り、個性を生かす教育を充実すること」を掲げることとした。第一、第二のねらいを実現するためには、その基盤としてこの点が不可欠であると考えられるからである。

そして、第四には、「iv) 各学校が創意工夫を生かし特色のある教育、特色ある学校づくりを進めること」を掲げた。第一、第二、第三のねらいは、各学校の具体的な教育活動を通して実現されるものであり、各学校が地域や学校、幼児児童生徒の実態を踏まえ、創意工夫を生かした特色ある教育の展開、特色ある学校づくりが極めて重要であるからである。

それぞれの具体的内容は次のとおりである。

- i) 豊かな人間性や社会性、国際社会に生きる日本人としての自覚を育成すること
……(略)……
- ii) 自ら学び、自ら考える力を育成すること
……(略)……

そのためには、幼児児童生徒の発達の状況に応じて、知的好奇心・探究心をもって、自ら学ぶ意欲や主体的に学ぶ力を身に付けるとともに、試行錯誤をしながら、自らの力で論理的に考え判断する力、自分の考えや思いを的確に表現する力、問題を発見し解決する能力を育成し、創造性の基礎を培い、社会の変化に主体的に対応し行動できるようにすることを重視した教育活動を積極的に展開していく必要がある。また、知識と生活との結び付き、知の総合化の視点を重視し、各教科等で得た知識・技能等が生活において生かされ、総合的に働くようにすることに留意した指導も重要であると考える。

各学校において、それぞれの地域や学校の実情を踏まえ、例えば、各教科等や今回創設される「総合的な学習の時間」などにおいて、体験的な学習、問題解決的な学習、調べ方や学び方の育成を図る学習などが重視されるとともに、自ら調べ・まとめ・発表する活動、話し合いや討論の活動などが活発に行われることが望まれる。

- iii) ゆとりのある教育活動を展開する中で、基礎・基本の確実な定着を図り、個性を生かす教育を充実すること

完全学校週5日制を円滑に実施し、生涯学習の考え方を推進していくためには、(1)才及び力述べたように、時間的にも、精神的にもゆとりのある教育活動が展開される中で、厳選された基礎的・基本的な内容を幼児児童生徒がじっくり学習し、その確実な定着を図るとともに、幼児児童生徒が自分の興味・関心等に応じ選んだ課題や教科の学習に主体的に取り組み、学ぶことの楽しさや成就感を味わうことができるようにすることも必要なことである。

そのためには、家庭や地域社会における教育との関連や各学校段階間の関連を考慮し、

個人として、また国家・社会の一員として望ましい人間形成を図る上で必要な基礎的・基本的な内容を明確にしつつ、教育内容の厳選を図る必要がある。特に義務教育においては、共通に学習すべき内容は社会生活を営む上で真に必要な内容に厳選する必要があると考える。

また、一人一人のよさや可能性を伸ばし、個性を生かす教育の一層の充実を図ることも重要なことであり、そのために、各学校段階を通じて、幼児児童生徒の興味・関心等を生かし、主体的な学習の充実を図るとともに、個に応じた指導の一層の工夫改善を図ることが大切であるとする。このような考えの下に、教育課程の基準としては、小学校高学年から、選択能力の育成を重視し課題選択などを取り入れ、中学校においては、学年段階に応じ漸次選択幅の拡大を図るとともに、高等学校においては、生徒による選択を基本とし、共通に履修させる内容はいずれの分野に進路を選択しようとも最低限必要な内容にとどめるようにすることが望ましいと考える。

iv) 各学校が創意工夫を生かし特色ある教育、特色ある学校づくりを進めること

以上述べてきたねらいを効果的に実現するためにも、各学校には、地域や学校、幼児児童生徒の実態等に応じて、創意工夫を生かした特色ある教育を展開し、特色ある学校づくりを進めることが強く求められている。

そのためには、こうした各学校の特色ある教育活動の展開を促すよう、教育課程の基準の一層の大綱化、その運用の弾力化を図る必要があると考える。このような考え方の下に、教育内容を厳選するほか、各学校段階や各教科等の特質に応じて目標や内容を複数学年まとめて示すようにしたり、取り扱うべき教材を細かく指定することは行わないなど内容等の示し方を大綱化する。また、日課表や時間割を各学校が創意工夫を生かして編成できるようにするなど1単位時間や授業時数の運用の一層の弾力化を図る必要があると考える。今回、新たに「総合的な学習の時間」を創設するとともに、中学校及び高等学校において選択の幅を拡大し、各学校の創意工夫を生かした教育活動が一層展開できるようにしたのもこのような考えに基づくものである。

特色ある教育活動を展開する上で、各学校が、幼児児童生徒が家庭や地域社会において行った体験や活動を生かした指導に努めるとともに、家庭や地域社会の人材・施設や様々な活動との連携を図った教育を行うことは極めて意義のあることと考える。

こうした取組を通じ、学校と家庭・地域社会が十分連携を図るとともに、開かれた学校づくりを一層推進していくことが大切であるとする。

(3) 各学校段階・各教科等を通じる主な課題に関する基本的考え方

以上のようなねらいの下に、各学校段階について各教科等の教育内容の改善を行う必要があると考えるが、各学校段階ごと、各教科等ごとの改善の方向、内容を示す前に、道徳教育、国際化、情報化、環境問題、少子高齢社会への対応など、各学校段階・各教科等を通じた横断的・総合的な課題についてどのように対応していくべきかと考えたかについてここに示しておく。

(道徳教育)

(国際化への対応)

イ 国際化が急速に進展する中で、国際社会に生きる日本人の育成という視点に立った教育の展開は、今後一層重要なものとなってくる。国際化の進展に対応した教育は、広い視野をもって異文化を理解し、異なる文化や習慣をもった人々と偏見をもたずに自然に交流し共に生きていくための資質や能力の育成を図ることをねらいとするものであるが、そのためには、我々はまず我が国の歴史や文化・伝統に対する誇りや愛情と理解を培う教育が重要であるとする。

現在、国際化の進展に対応した教育は、社会科、地理歴史科、外国語科を中心に各教科、道徳、特別活動の特質等に応じて行うこととされているが、各教科等に加え「総合的な学習の時間」においてもこのような視点に立った教育の充実を図っていくことが必要である。

お、今後、国際化の進展に対応した教育を進めるに当たっては、これまでと全く欧米先進諸国に目を向けがちであったことを改め、アジア諸国等に一層目を向けるよう留意することが大切であると考える。

また、外国語教育については、自分の考えや意思を適切に表現できる基礎的・実践的コミュニケーション能力の育成を一層重視しつつ、中学校及び高等学校において外国語を必修とするなどの改善を図る必要があると考える。

また、小学校における外国語の取扱いとしては、各学校の実態等に応じ、「総合的な学習の時間」や特別活動などの時間において、国際理解教育の一環として、児童が外国語に触れたり、外国の生活や文化などに慣れ親しんだりするなど小学校段階にふさわしい体験的な学習活動が行われるようにする必要があると考える。

(情報化への対応)

……(略)……

平成11年度までに公立学校において、小学校で2人に1台、中学校・普通科高等学校・盲学校・聾学校・養護学校で1人に1台の水準で教育用コンピュータの整備が進められている。

また、学校における情報通信ネットワークについては、中学校・高等学校・盲学校・聾学校・養護学校は平成13年度までに、小学校は平成15年度までに、すべての学校がインターネットに接続できるよう計画的な整備が進められている。

……(略)……

具体的には、小学校、中学校及び高等学校を通じ、各教科等の学習においてコンピュータ等の積極的な活用を図ることとし、学校段階ごとには、小学校においては「総合的な学習の時間」をはじめ各教科などの様々な時間でコンピュータ等を適切に活用することを通して、情報化に対応する教育を展開する。中学校においては技術・家庭科の中でコンピュータの基礎的な活用技術の習得など情報に関する基礎的内容を必修とし、高等学校においては、情報手段の活用を図りながら情報を適切に判断・分析するための知識・技能を習得させ、情報社会に主体的に対応する態度を育てることなどを内容とする教科「情報」を新設し必修とすることが適当である。

招来など、情報化が児童生徒に与える「影」の部分に十分留意することが望まれる。

……(略)……

(環境問題への対応)

……(略)……

今後は、各教科、道徳、特別活動及び「総合的な学習の時間」のそれぞれにおいて、地域の実情を踏まえた環境に関する学習を充実するとともに、児童生徒の発達段階に応じて、例えば身近な自然環境から地球規模の環境までを対象に環境を調べる学習など、問題解決的な学習や作業的な学習、体験的な学習を一層重視する必要があると考える。

(少子高齢社会への対応等)

……(略)……

今後は、各教科、道徳、特別活動及び「総合的な学習の時間」において、それぞれの教科等の特質に応じ、少子高齢社会に関する基礎的理解、家族関係や子育ての意義、介護・福祉など少子高齢社会の課題に関する理解を深めるとともに、実際に幼児、高齢者や障害のある人と交流し、触れ合う活動や、介護・福祉に関するボランティア活動を体験することを重視する必要がある。

……(略)……

さらに、児童生徒に対し、生涯にわたり心身ともに健康な生活を送るための基礎的な健康や体力をはぐくむことは極めて大切なことであり、体育・保健体育科、家庭科などの各教科、道徳、特別活動及び「総合的な学習の時間」において、体験的な活動等を通して、健康の大切さや自分の体に気付き、広く健康の課題に対処できるように指導を充実する必要がある。

……(略)……

(横断的・総合的な学習、教育課程の基準の大綱化・弾力化)

カ 児童生徒一人一人の個性を伸長する教育を行うためには、まず何よりも児童生徒の実態、地域の実情等を踏まえて、各学校が創意工夫を存分に生かした特色ある教育活動を展開することが重要である。

現在、国、地方公共団体、学校等を通じた地方教育行政制度全体について見直しを行っている中央教育審議会においても、学校の自主性・自律性を確立し、教育委員会は学校の自主的取組を支援することに重点を置くとともに、国は教育委員会の主体的な取組を一層重視する方向で検討が行われている。

各学校の創意工夫を生かした指導が一層行われるようにするとともに、児童生徒の主体的な学習を促す観点から、学習指導要領における各教科・科目の内容の示し方については、教育内容の厳選や基礎・基本の明確化に努めつつ、学校段階や教科等の特質に応じて、目標や内容を複数学年まとめて示したり、各学校がその特色に応じ、また児童生徒がその興味・関心等に応じ、選択できる幅を広げたりするなどの大綱化や弾力化を図る必要がある。

また、小学校、中学校、高等学校、盲学校、聾学校及び養護学校に「総合的な学習の時間」を創設し、各学校が創意工夫を生かした特色ある教育活動を一層展開できるようにするとともに、国際理解・外国語会話、情報、環境、福祉・健康などの課題について横断的・総合的な学習を推進できるような仕組みを整えることとする。